

館林市立第四中学校 学校評価一覧表

(様式1)

自己評価 A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満

羅 針 盤			方 策	自己評価①			自己評価②				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	教師	改善策①	生徒	保護者	教師	改善策②
I 保護者との連携 教頭・教務	1 保護者への情報提供	①「学校や子供の様子が分かる」と答えている保護者が <u>80%以上</u>	①学校HP、スクールMailアシスト、ホーム&スクール、通知との併用による広報活動の充実を図る。	77	95 A	100	引き続き、保護者や地域と連携・協働していくために、ICTを活用した情報発信をしていく。またホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	77	94 A	100	引き続き、保護者と連携・協働していくために、通知とホーム&スクールの両方で情報発信をしていく。(個人情報については細心の注意を払っていく。)
		②連絡メールやたより、学校HPなどから必要な情報が得られている保護者が <u>80%以上</u>	②学校HP、スクールMailアシスト、ホーム&スクール、通知との併用による広報活動の充実を図る。	88	97 A	87	引き続き、保護者や地域と連携・協働していくために、ICTを活用し必要な情報を発信していく。またホーム&スクール未登録保護者に登録を促していく。	83	98 A	97	引き続き、保護者と連携・協働していくために、通知とホーム&スクールの両方で情報発信をしていく。(個人情報については細心の注意を払っていく。)
	2 保護者への対応・学校への信頼	③学校は、「相談しやすい」と感じる保護者が <u>80%以上</u>	③日常的に担任が心配な生徒の保護者と連絡を取り、保護者が気になることが生じたときに気軽に連絡できる関係を構築する。また、SC、SSW、相談員の相談体制について、生徒・保護者に定期的に周知する。	65	86 A	97	生徒の「相談しやすい」が低いことが気になるが、引き続き相談室についてのPR活動等をしていく。	70	90 A	97	職員一人一人が保護者や生徒の声に耳を傾ける意識が高まってきている成果と考えられる。引き続き、担任を中心としながらも組織的に対応していく。さらに、相談員による授業参観での生徒の実態把握と、生徒との距離を縮めていく取組をしていく。
		④学校に安心して子どもを送り出すことができると感じる保護者が <u>90%以上</u>	④必要に応じて電話連絡や家庭訪問を実施するとともに保護者からの相談に対しては丁寧に対応する。	79	97 A	100	生徒の79%という数値が気になるので、生徒会などから情報を吸い上げ原因を探り、対策を講じていく。	82	96 A	100	担任を中心に、何かあったときには家庭に連絡するなど、きめ細かな対応の成果と考えられる。(継続していく。)
II 確かな学力 学力向上Co	3 わかる授業づくり	⑤「意欲的に取り組んでいる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑤授業公開などを通して、授業の工夫などを共有しながら指導力を高め、それぞれの教員が魅力ある授業作りができるようにする。	89 A	74	100	保護者アンケートの74%の対策としては、学校通信や学年通信等で「はばブラII」を活用した授業実践について発信していく。また、「学力だより？」などで発信していく。	92 A	75	100	授業内容や教材を工夫し、生徒が積極的に授業に取り組めるようにする。
		⑥「授業が分かる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑥-1めあて、振り返りの時間を設定し、生徒が目的意識をもって授業に取り組む、何を学んだかを実感できるようにする。 ⑥-2シラバスを作成、活用し、どのように学習を進め、そのように評価するかを生徒や保護者に周知する。	89 A	70	87	保護者は、新学習指導要領に伴う評価について不安があるようなので、引き続き、情報発信及び必要に応じて丁寧な説明をしていく。	92 A	73	100	生徒の考えや疑問からめあてを設定して、生徒が目的意識をしっかりと持って授業にのぞめるように工夫する。
	4 基礎的な知識・技能を定着させる授業づくり	⑦「自力で課題を解決できるようになった」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑦ノートなどから生徒の学習状況を見取って、その状況を評価し、支援が必要な場合は実施する。	87 A	80	100	各教科で学習状況を見取る工夫を行い、生徒が課題を解決できているかを見取っていく。そして生徒の状況に合わせた指導を行う。	90 A	80	90	各教科で学習状況を見取る工夫を行い、生徒が課題を解決できているかを見取っていく。そして生徒の状況に合わせた指導を行う。
		5 学習習慣の定着の工夫	⑧家庭学習や読書を自主的・計画的に平均1時間以上取り組める生徒が <u>80%以上</u>	⑧家庭学習ノートの活用法について、生徒や保護者に周知するとともに、担任が点検し、家庭での学習が定着するようにする。また、家庭学習ノートで模範となる取組をしている生徒を紹介し、生徒の意欲的な取組を促す。	71 B	60	83	様々な手段で家庭学習ノートの活用を発信し、保護者に周知する。シラバスなどを活用して学習方法についての指導を行い、生徒が積極的に家庭学習に取り組めるように支援する。	73 B	62	83

III 豊かな心 生徒指導 教育相談	6 いじめのない温かい人間関係	⑨「学校は悩みやいじめの解消に努めている」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑨毎月の学校生活アンケートを実施し、悩みを抱える生徒には二者面談などを行っていく。また、生徒の生活の様子を細かく見ていき積極的に声をかけを行っていく。気になる生徒には教育相談部と連携を図って対応していく。	83 A	87	100	○学校生活アンケートの結果への対応のみだけでなく、普段から生徒の表情や学校生活の様子の変化を見ていき、積極的な声かけや面談を行う機会を設けていく。個や状況に応じて、教育相談部、家庭、外部機関との連携を図っていく。	85 A	90	97	○生活アンケートやストレスチェックを継続して行い、生徒自身が抱える問題や悩みの相談を積極的に行うようにしていく。生徒の表情や生活ノートから、生徒の気持ちの変化に気づけるようにし、個や状況に応じて、全職員で連携を図っていく。
		⑩学級が居心地がよいと感じている生徒が <u>80%以上</u>	⑩学級活動では生徒が主体となる活動の場を設定し、プラスの評価をしていく。また、エンカウンターやアサーショントレーニングを積極的に取り入れ、生徒同士が理解し合える人間関係を構築できるような授業実践を行っていく。	83 A	87	97	○学級活動の時間を有効かつ計画的に活用し、エンカウンターやアサーショントレーニングを行い、生徒同士が人間関係の構築を図れる機会を増やしていく。ストレスチェックやQ-Uの結果を活用し、一人一人にきめ細かな対応をしていく。	85 A	88	100	○各学年の行事、進級・卒業に向けて、クラスの絆が深まるように支援を行っていく。また、授業や部活動で生徒が主体となる活動を増やし、生徒同士が認め合える機会をつくっていく。
	7 あいさつや時と場に応じた適切な言動をとることのできる生徒の育成	⑪進んであいさつをしたり、正しい返事ができる生徒が <u>80%以上</u> 。	⑪教師側が生徒の模範となるように、積極的に挨拶を行っていく。生徒会や生活委員による毎週の挨拶運動を継続していく。朝の健康観察では生徒一人一人呼名を行い、粘り強く返事をさせていく。	92 A	82	90	○生徒主体の挨拶運動を継続して行い、教師が見本となり、挨拶を推進していく。返事の場合では粘り強く返事をさせていく。	92 A	86	90	○生徒主体の挨拶運動を継続して行う。授業の始まりと終わりの挨拶も、各クラスでしっかりとできるように粘り強く指導していく。
IV 進路・生き方 進路指導 特別活動	8 規範意識に基づいて判断し行動できる生徒の育成	⑫学校や家庭のきまりや約束を守って生活している生徒が <u>80%以上</u>	⑫教員間で共通理解を図り、教師側のぶれない指導を軸に良いことは褒め、悪いことは徹底して悪いと指導する態度を示す。職員全体で生徒が自ら考え行動できるような指導をしていく。	94 A	85	100	○全職員で学校生活におけるきまりについて共通理解を図り、ぶれない指導を徹底し、複数の教員で組織的に対応していく。また、個に応じたきめ細かな指導も実践していく。	96 A	87	97	○全職員で学校のきまりを再確認し、来年度に向けて見直しを行っていく。また、生徒からの意見も取り入れ、生徒会を中心に決まりについて話し合い、決まりに対する生徒の意識を高めていく。
		9 進路学習や指導態勢の充実	⑬学級活動における進路学習や総合的な学習の時間などの体験活動を通して自己の生き方を考えている生徒が <u>80%以上</u>	⑬3年間のキャリア教育を見通して、生徒が主体的に自己の生き方や進路選択を考えられるような指導や働きかけを行う。	81 A	80	93	80%の生徒が自分の進路について考えられているが、1年次から進路への意識を高められるような働きかけを充実させていく。	86 A	89	93
	10 将来の夢や希望を育むこと	⑭将来の夢や希望する進路について親子で話し合っている生徒が <u>80%以上</u>	⑭定期的に生徒、保護者と二者面談や三者面談を実施したり、全学年でキャリア教育に関する通信を発行したりするなど、進路に対する意識を高める働きかけを行う。	77 B	82	90	進路について考えているが、保護者と話す機会が少ないという結果になった。進路学習の授業で、親子で共に考えられるような指導の手立てを考える。	82 A	85	97	三者面談を経て、家庭で進路について話す機会が増えたことと、学年ごとの進路を意識した学習面のサポートなどが生きている。継続して行っていきたい。

V 健康・体力 保健・保体部	11 基本的生活習慣の定着	⑮朝食をとっている生徒が <u>90%以上</u> ⑯十分な睡眠時間を確保している生徒が <u>90%以上</u>	⑮⑯保健委員会の活動を通して、生徒の実態を把握する。また、その結果をもとに、各教科や部活動等で、朝食、睡眠、生活リズムを整えられるよう指導していく。	94 A 80 B	95 76	80 86	保護者との面談機会を通して、投げかけていく。また、学校保健委員会のテーマとして、生徒が主体的に考えられるようにしていく。	94 A 81 B	98 75	73 83	保健委員会の中で把握した四中生の実態を生徒全員に周知し、自分の生活を見直す機会を設ける。また、テスト前に学習計画表の中に生活リズム表を加え、生徒自身が自ら生活習慣を整えようとする気持ちを育む。
	12 体力向上	⑰体を動かす工夫をするなど運動（部活動・体育の授業を含む）や地域のスポーツ活動などに取り組んでいる生徒が <u>80%以上</u>	⑰生徒が、運動を楽しんで活動することで、体力向上につなげることができるよう、活動するグループ内の人間関係や活動場所の環境を整備すると共に教員同士や地域のスポーツ組織と連携をとる。	85 A	81	83	補強運動の工夫を行い、怪我予防の観点から体力向上につなげていきたい。授業では、進んで運動に取り組める工夫をしていきたい。	80 A	76	97	授業改善だけでなく、部活動や朝トレなどを実施し、生徒の主体的な取組による体力向上を図っていく。また、体育的活動の成果を積極的に発信し、保護者との協体制度も構築していきたい。
VI 安全確保 安全	13 学校の安全対策	⑱「学校は安全である」と感じている生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑱毎月の安全点検を行うとともに、日々の授業や部活動等で気がついた修繕箇所などはその都度報告をすることを促し、早急に対応していくよう努める。	79 B	94 A	100	生徒はやはり教室の床を危険と感じているので、夏季休業中にできる限り対処していきたい。	81 A	91 A	93	職員一人一人の安全意識の高まってきている。しかし、生徒の怪我は減っていないので、生徒への繰り返しの声かけ指導を行っていく。
	14 地域の安全対策	⑲安全に通学できるよう、交通ルールに気をつけて登下校できる生徒が <u>100%</u>	⑲日々の短学活や道徳等の授業、行事等の特別活動などを通して、交通安全の意識を高められるように、生徒に継続的に啓発していく。	98 B	98	97	生徒への注意喚起、朝の交通安全指導により、生徒の安全意識が高まってきている。どんな場面でも安全意識を持てるようにさせたい。	98 B	97	97	担当が企画した、ダミー人形の衝突実験や月一交通安全指導により、生徒の交通安全意識が高まってきている。（継続指導していく）
	15 感染症対策 保健・養護	⑳学校の感染症対策が適切に行われていると感じる生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑳感染対策については、生徒や学校の実態や流行状況に応じて、改善を重ねていく。また、保護者通知などを通して保護者と連携・協力して感染対策をしていく。	97 A	99 A	97	デルタ株への対策として、今までの取組を検証しながら必要であれば新たな感染症対策をしていく。	98 A	100 A	100	オミクロン株への対策として、睡眠を充分にとり、抵抗力を高めることに重点をおきたい。生徒が自分で自分を守ることができるよう、働きかけをしていく。
VII 組織運営 教頭	1 学校経営の協働参画システムの構築	㉑「組織の一員としての自覚をもって担当の校務分掌に意欲的に取り組み、職員の理解や協力が得られている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉑校務分掌の担当に声かけし、担当の分掌への自覚を高めるとともに、結果だけでなく、取組についても称賛しやりがいが持てるようにする。			93 A	それぞれの担当者が責任感を持って連携・協働し取り組んでいる。今後は、業務の効率化をより一層推進していく。			100 A	職員一人一人が、自分の分掌に対して、責任を持って取り組むことができている。業務の効率化や、行事等の見直しという視点で来年度につなげていく。
		㉒「職員会議や学年会議等が情報交換や課題検討の場として機能している」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉒会議の効率化と共通理解を深めるために、事前の丁寧な準備について指示をする。C4t hの連絡掲示板を活用し、随時必要な意見交換ができるようにする。			93 A	学年主任や各主任が先生方へ必要な情報を流すことで、会議の効率化が図られてきている。今後も業務の効率化をしていく。			97 A	学年主任や各主任が先生方へ必要な情報を流すことで、会議の効率化が図られてきている。今後も業務の効率化をしていく。

	<p>③「教職員間の相互理解が十分なされ、信頼関係に基づいた教育活動を行っている」と答えている教職員が80%以上</p> <p>④「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係ができています」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑤「教室内外の環境整備に向けて努力している」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑥「この職場は、教職員の服務規律確保への自覚が高い」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>③職員が明るく元気に仕事ができるように、学年主任等の運営委員に、目配り、気配り、心配りするよう依頼する。</p> <p>④当初の人事面談において、「公私ともに伝えておきたいことがありますか」などと投げかけ、気軽に相談できる体制づくりをしていく。</p> <p>⑤学校としての努力点の一つとして、教室環境(きれいな教室・安全な教室)を掲げ、職員・生徒の両者が高い意識で環境整備に取り組めるようにする。</p> <p>⑥-1 毎月末に「服務規律チェックリスト10」で自己評価させ、服務を守る意識を高く保てるようにする。が継続できるようにす</p> <p>⑥-2 服務に係わる新聞記事があった場合、朝の打合せで情報提供していく。</p>	93 A	各主任が事前に関係者と打合せをしていることがこのような結果につながっている。引き続き、信頼関係に基づいた教育活動をしていきたい。	100 A	各主任が事前に関係者と打合せをしていることが結果につながってきている。引き続き、信頼関係に基づいた教育活動をしていく。
			90 A	学年主任や中核となる教員により、風通しのよい職場環境ができていますと考えられる。引き続き、風通しのよい職場環境作りに努めていきたい。	100 A	学年主任や中核となる教員により、風通しのよい職場環境ができていますと考えられる。必要に応じて、SC面談等を実施していく。
			97 A	他者からの評価を踏まえると改善された部分も多いが、不十分な部分もある。今後は、専門委員会とも連携した学校美化活動を取り入れていきたい。	97 A	2学期末の清掃強化週間により、校内美化が推進され、学校評議員などの地域の方からも高い評価を受けた。愛校心につなげていきたい。
			90 A	職員の言動から服務規律確保の意識の高まりを感じる。引き続き、ストレスを抱えて、校務内だけでなく校務外での非違行為などが発生しないよう風通しのよい職場づくりをしていきたい。	97 A	職員間の言動から規律確保意識の高まりを感じる。小さなほつれから大きな問題に発展しないよう、引き続きチーム四中でよりよい学校を目指していく。
2 学習指導・生徒指導の推進	⑦生徒一人ひとりを大切に授業づくりや生徒との信頼関係づくりに努めている教職員が100%	⑦単位時間毎にねらいに即した明確な「めあて」を生徒全員に共有させるとともに、授業後半には「振り返り」の時間を設ける。また、「めあて」の設定においては、生徒が主体となるように工夫する。	100 A	○授業研究班において、引き続き「めあて」の共有と「振り返り」の設定を意識した問題解決的な授業を展開するとともに、前期指導主事訪問を通して得られた課題についても意識しながら班内での検討を行っていく。	100 A	○一人1+α授業において、「めあて」の共有と「振り返り」の設定を意識した問題解決的な授業を実施するとともに、前・中期指導主事訪問を通して得られた課題について、改めて全体で確認を行いながら、今年度の振り返りを進めていく。
研修推進						
	⑧「積極的に授業を見合い、互いに学び合うことによって自分の授業づくりに生かしていると答えている教職員が80%以上	⑧授業検討部会内での授業公開を積極的に行い、自身の担当教科以外の授業も参考にしながら活発な意見交換を行っていく。	84 A	○授業研究班で授業づくりを引き続き行っていくとともに、授業研究班内や教科部会内での計画的な授業公開を実施していく。	90 A	○後半の一人1+α授業公開を計画的に実施していくとともに、来年度以降の授業公開の在り方についても検討を行っていく。
3 公文書や個人情報等の情報の適切な管理	⑨「各種文書・データ等は、校務分掌や担当ごとに適切に管理されている」と答えている教職員の80%以上	⑨フォルダを統一の形式で分掌/学年分けしたり、C4thの掲示板・個人連絡機能を活用したりして、必要な担当に必要な情報を情報交換することができるようにする。	93 A	○フォルダの統一、C4thの掲示板・個人連絡機能の活用を継続していく。クラウド活用が増加していくため、学習に関するデータ等の権限設定を確認する習慣を付ける。	100 A	○共有フォルダの階層を見直し、所在がわかりやすい状態を維持していく。クラウド上の学習データについての意識、パスワード管理の啓発などの情報モラル研修にも務める。
情報						
	⑩「個人情報が確実に保護され、管理が徹底されている」と答えている教職員が80%以上	⑩緊急連絡先・成績等の個人情報の所在をはっきりし、施錠を確実に行う。また、毎月の服務規律確認に併せて個人情報に関する点検を行う。	97 A	○緊急連絡先・成績等の個人情報を保管する所在をはっきりさせる。また、毎月の服務規律確認に併せて個人情報に関する点検を継続していく。	97 A	○緊急連絡先・成績等の個人情報管理を徹底する。また、毎月の服務規律確認に併せて個人情報に関する点検を継続していく。
4 感染症対策	⑪「この職場は、教職員の感染症対策への自覚が高い」と答える教職員が90%以上	⑪-1 国や県、市の新型コロナウイルスの感染対策を共有し、同一歩調で感染対策をしていく。 ⑪-2 生徒指導部会(コロナ対策推進部)や職員会議で感染対策について点検評価し、見直しをしていく。	93 A	養護教諭、保健主事、体育主任を中心に、持続可能な感染症対策を行っている。夏季休業中には、カーテンを洗うなど、さらなる感染対策を行った。引き続き、感染状況を踏まえた感染体躯をしていく。	97 A	養護教諭、保健主事、体育主任を中心に、感染状況に応じた感染症対策を行っている。今後も、最新の情報をキャッチしながら、国や県、市の指導の下、必要な感染対策をしていく。
保健・教頭						